

# ジャスティン L ペイトン 米国出身の元キリスト教徒

:

明:アフリカ系米国人によるイスラ ム改宗 。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: ジャスティン L ペイトン

日 17 Aug 2015

集日 17 Aug 2015



私の名はジャスティン ペイトンといい、ペンシルバニア州フィラデルフィア出身の29  
のアフリカ系米国人です。私は中流 の家庭で、情に ちた 、そして3人の兄弟と共に育ち  
ました。

私の家族は自分たちをキリスト教徒であるとしていましたが、どの教会にも属してい  
ませんでしたし、日曜礼 などの活 にも参加していませんでした。家庭での宗教的行事  
といえば、クリスマスを祝うことくらいでした。

は私が良く振るまい、良き品行を持つことを求めました。米国社会における 婚と家族  
の悲惨な 状を る限り、私はこうした祝福を神に感 します。

さらに による世界の他地域の 史や文化への 味は、自分たちの や信条とは なる人々への  
容 敬意 称 の空 を培 しました。これらの要素は、私が将来的にイスラ ムを受け入れるこ

とへ大きく寄与したと思います。

私のイスラ ム改宗のきっかけとなったひとつの出来事を上げるのなら、それは9 11の悲となるでしょう。イスラ ムとムスリムに しての、メディアによる数ヶ月にも渡る否定的な 道は、私がフィラデルフィアで育ちながらムスリムのクラスメ ト、 人などと接して感じたこととは矛盾していました。

同 に、私はムスリムの知り合いがいるにも わらず、彼らの信仰について学ぶことに十分な を取ってはいなかったことに 付きました。

こうして、 によって偏 を持たないよう教育された影 からか、私はムスリムたちとの 人的 とメディアで 道されている事 との温度差の原因を突き止めるべく、イスラ ムについて べてみることにしました。

当 大学生だった私は、まずインタ ネットで情 を探し、しばらく 索するとある非ムスリム向けのウェブサイトに出り着きました。

その 数ヶ月 は、ムスリムの基本的信条と 践についてのものから、神への信仰、 言者、典、 判の日などの な信仰 条に して、また礼 、断食、巡礼などのより深いトピックの に移行していきました。

そのサイトはイスラ ムにおける家族や 婚、またこのサイトのような改宗 などもありました。

もっと多くのことを学びたいと思った私は、近所の本屋へ行き、クルア ンの翻 本を入手して み始めました。こういった情 が最も 的で、それはなぜかということなら何ペジでも くことができますが、ここではそこから んだすべてのことが理にかなっていたと述べるだけに留めておきましょう。

さらに数ヶ月が つと、イスラ ムについて独学をするだけでは事足りなくなり、近くにモスクがあるか探しました。

最も近くの本屋は 70キロも 離れていましたが、その代表者として、地元のムスリムたちとイスラームについて話し合う機会をもちました。

その日、とても大切なムスリムと話し合うことができました。彼が共有してくれた情報は、私の心に染み入りました。

2002年の夏に2回目にそこを訪れたとき、遂に私はイスラームが真理であると信じるようになり、その場で信仰告白をし、そのまま週末をモスクで過ごし、礼拝の方法などを学びました。

そのコミュニティは素晴らしいところで、もしも近所に住んでいたのなら、新改宗ムスリムとして山のサポートを受け、新たな人生のスタートができていたことでしょう。しかしそれはありませんでした。

9/11事件の前、私は海軍に興味を持つようになり、改宗へとつながったイスラームの勉強と同時に、地元の米海軍スカウトとも会っていました。

イスラームに改宗したおよそ2ヶ月、私は米海軍へ入隊する契約をし、その年の大学卒業の冬に新兵訓練所へと参加していました。

今を思い返してみると、海軍に就くことによって得た技術と知識について感銘を受けるを得ません。しかし、今にして思えば改宗と入隊の2つの出来事のタイミングは理想的なものとは言えませんでした。

新ムスリムとして、海軍での生活は宗教的事柄とは異なる環境に身を置くことを意味しました。例えば、新兵訓練のスケジュールは礼拝を無視に行うことや、ラマダン中の断食などの宗教的義務の遂行を度々困難に、あるいは不可能にさせました。

海軍になっても、米国内の全くムスリムがいないコミュニティでの配属となり、それは信仰の自由を妨げる要因となりました。海軍に就いて3年以内では、イスラームについて、またはムスリムとしていかに生活を送るべきかを教えてくれる同胞と出会うことはありませんでした。神がその同胞の努力を助けてくれますように。

2007年の夏に を完了した 、私はフィラデルフィアに り、 地のモスクの活 的なメンバ に なった 、ムスリムの市民 を する非 利 体の「アメリカ イスラム 会 (CAIR) 」の地元支部 で を得るといふ祝福を受けました。

フィラデルフィアのムスリムコミュニティとCAIRの で2年 を ごしたことは、自らのムスリムとしての 展と、さらなる研磨への欲求にとても寄与しました。

そして私は今、コネティカット州のハ トフォ ド神学校でイスラ ム学、そしてクリスチャン ムスリム の修士 程に所属しています。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2858>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。